



一宮町長
馬淵 昌也

最近、日本の道路には、歩道があまりにも少ないと感じています。一宮町でいうと、国道には歩道がかるうじてとつてありますが、とても十分な広さがあるとはいえません。一方、海岸沿いの県道には、東浪見海岸から釣ヶ崎までを除いて、歩道がありません。町中の道路は、住宅や商店の間を通る場合、対面通行ができないほど狭い道も珍しくありません。

たとえば、私の住んでいる追手の坂などは、元一宮城へのアクセスルートですから、軍事的な要請から狭くなければおかしいでしょう。そうした「狭い」ことに歴史的必然があるものは、しかたありません。しかし、海岸沿いの県道などは、かなり新しく通った道路ですが、計画の際に歩道は構想されていなかったようです。

翻って、アメリカでの経験からいうと、アメリカ社会では、大都市はもちろん、田舎町でも、道路には必ず歩道があります。しかも、随分広くとつてあるのです。従って、歩くのに自動車と交錯して困るということは、田舎町でもありません。

「これは、べつべつな事情なのかな」と前から思っていました。最近思いつ

いたことがあります。それは自動車出現以前にどういう交通手段を使っていたか、ということ。日本とアメリカの大きな差と言えば、馬車の有無です。日本でも、江戸時代に運輸に馬を使っていました。馬を疾走させることは、少なかったと思います。早馬での疾駆は、特殊な場合だったと思われます。平時の馬の使用においては、馬は人に乗せても、荷物を運んでも、車を引いても、歩くことが常態であったわけです。

それに対して、アメリカでは、ヨーロッパにならない人間が乗る馬車が利用され、馭者によって相当早く走っていたようです。洋画の中に出てくる馬車も、結構な速さで走っています。こうしたことだと、歩く人の安全を確保するために歩道をしっかりとつて、車道と分けるしかありません。

私が考えるには、こうした速い速度で走る馬車の有無が、日本とアメリカの歩道の有無につながっているのではないかと思います。いずれにせよ、今後は、超高齢化社会の到来を迎えて、従来以上に歩く人の利益を第一に考えてゆくべきだと思います。